トピック(テーマ)			女流の信仰物語、善光寺への女旅日記
ねらい			奈良・平安時代、寺院は厳しい戒律のもとに女性の立ち入りを拒んでいました。しかし、善光寺は、『善光寺縁起』に月蓋長者という富豪の娘如是姫(にょぜひめ)の病気を治した話があるように女性を救う寺として知られていました。 女性の善光寺信仰、女旅日記等について調べる。
キーワード			遊女千手(せんじゅ)前　虎御前の参詣　熊谷蓮生坊と玉鶴姫　東路日記　小田宅子　沓掛なか子　佐藤兄弟母供養塔　平家物語　善光寺縁起　二条の善光寺参詣
概要を知るためのツール	1	書名	善光寺史研究
		著者名	小林計一郎／著
		出版社	信濃毎日新聞社
		出版年	2000.5
		内容紹介	「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」「虎御前の参詣」「熊谷蓮生坊と玉鶴姫」等、善光寺参詣と女人信仰の話が載っている。
	2	書名	長野県史　通史編　[第二巻]
		著者名	長野県／編
		出版社	長野県史刊行会
		出版年	1986年
		内容紹介	中世一 第七章に善光寺詣と女人信仰あり。
	3	書名	姥ざかり花の旅笠
		著者名	田辺聖子／著
		出版社	集英社
		出版年	2001.6
		内容紹介	天保12年(1841)、筑前の商家のお内儀・小田宅子は53歳で伊勢・善光寺へと旅立つ。一行は女4人と従者3人。歌枕を訪ね、街道、間道を歩き、行く先々でのお買い物や芝居見物、生気躍動する江戸の女旅記録
資料リスト	1	書名	信州善光寺案内
		著者名	善光寺事務局／監修
		出版社	しなのき書房
		出版年	2009.4
		内容紹介	佐藤兄弟母供養塔 寿永の戦いに源義経の身代わりとなった佐藤継信・忠信兄弟没後、文治3年(1187)10月に兄弟の母梅唇尼が参詣して、供養のために建立したと伝えられる。梅唇尼は義経が頼った藤原秀衡の妹で、文治3年の参詣は、頼朝による善光寺の再建最中で、平泉に義経討伐以前である。
	2	書名	平家物語(ワイド版岩波文庫)
		著者名	梶原正昭／校注
		出版社	岩波書店
		出版年	2008.8
		内容紹介	重衡東下り 「遊女千手(せんじゅ)前の哀切なる参詣伝説」 寿永3年(1184)、平重衡(しげひら)は壇ノ浦の合戦で捕えられ鎌倉に送られた。手越(てごし　静岡市)の長者の娘千手の前が頼朝の命で重衡の世話をした。重衡が斬られた後、千手は善光寺にはいって重衡の菩提を弔ったという。
	3	書名	善光寺さん
		著者名	小林計一郎／著
		出版社	銀河書房
		出版年	1979.1
		内容紹介	「虎御前の参詣」の話などが収められている。
	4	書名	江戸時代女流文芸史　旅日記編(笠間叢書)

		著者名	前田淑／著
		出版社	笠間書院
		出版年	1998年
		内容紹介	「沓掛なか子と『東路の日記』(福岡女学院短期大学紀要)20、1984年」、
	5	書名	福岡女子大学附属図書館蔵　東路日記
		著者名	小田宅子／著　井上敏幸[ほか]翻刻・解題
		出版社	
		出版年	奥付嘉永4年5月13日78翁藤原常足
		内容紹介	筑紫、今の福岡県中間市の商店小松屋の宅刀自(いえとじ)・女主人の小田宅子が、親友桑原久子ら女性4名(従者の男性3名も加え一行7名)と連れ立って伊勢参り、善光寺参詣、日光・江戸見物などの旅行の体験・記録をまとめたものです。天保12年(1841)1月16日から6月13日まで、道程800里を超える旅日記
	6	書名	女房たちの善光寺詣り:江戸時代信州の町と村と祈りのかたち
		著者名	田中薫／著
		出版社	一草舎
		出版年	2009.5
		内容紹介	江戸時代の善光寺参詣の様子を史料や女手形に基づき紹介する。
雑誌	1	論題名	善光寺と女性参詣―長野市箱清水―
		著者名	小林計一郎
		雑誌名	社会と伝承
		巻号頁数	6巻3号
	2	論題名	善光寺縁起と女性
		著者名	小林一郎
		雑誌名	長野
		巻号頁数	第50号
	3	論題名	二条の善光寺参詣について
		著者名	小林計一郎
		雑誌名	長野
		巻号頁数	第64号
	4	論題名	近世二女性の参詣記・・・諸九尼の「秋風の記」と小田宅子の「東路日記」
		著者名	小林計一郎
		雑誌名	長野
		巻号頁数	第213号
	5	論題名	二条の善光寺参詣について
		著者名	小口倫司
		雑誌名	駒沢国文
		巻号頁数	3号
インターネット情報	1	サイト名	信州地域史料アーカイブ
		URL	https://adeac.jp/shinshu-chiiki/
	2	サイト名	善光寺公式サイト
		URL	http://www.zenkoji.jp/
	3	サイト名	国立国会図書館サーチ
		URL	http://iss.ndl.go.jp/